

## 岐阜県防災ヘリ運航管理のあり方検討会（第5回）議事要旨

日 時 令和2年9月11日（金）13時15分～14時20分

場 所 岐阜県庁4階外部機関等要員室

出席者 別紙のとおり

### 議事次第

1 開会

2 副知事あいさつ

3 議事

（1）アクションプランの進捗について

（2）若鮎皿の運航再開に向けた訓練について

### 議事概要

○事務局から資料説明後、議論。

○委員からの主な意見は以下のとおり。

（1）アクションプランの進捗について

- ・消防庁が示したCRM訓練ガイドラインは幅を持たされているので、自分たちの歴史・教訓を含めながら、岐阜県独自のCRM訓練実施要領を作ってほしい。
- ・当初、CRM研修を7月30日・31日に実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症のためキャンセルした。しかし、研修で使用するテキストを事前に送付し、新たに配置された安全管理者の知見と合わせて、安全管理者による導入訓練的なCRMの講義が実施された。これにより、心構えの第一歩は植え付けられ、最低限のことはクリアできている。今後も研修が行われるので、それでカバーされていくものとする。
- ・航空事業会社から整備士が採用されるので、その知識や経験を管理方法に反映させてほしい。
- ・航空事業会社には「安全統括管理者制度」があり、安全管理に責任を持つということで経営層の人間がその役割を担っている。航空局関係の安全教育や講習会が多く行われているので、管理職員にはこうした講習会に積極的に参加し、そこで感じたことを隊に反映させてほしい。
- ・今回の事案の発端がハラスメント事案であることを思い出していただき、二度とハラスメント的なことが起こらないよう配慮いただきたい。

(2) 若鮎Ⅲの運航再開に向けた訓練について

- ・今の時点における訓練評価に問題があるわけではないが、同じ「物差し」で評価を続けても意味がない。今後の訓練については、CRMによるきめの細かい評価を行っていく必要があり、訓練の評価者もCRM研修を受けていただきたい。
- ・訓練評価が良好・順調といったものが多すぎる。訓練というものは全てが順調ではなく、問題点もあるはず。何が問題だったのか、どう解決したのか、チームとしてどう取り組んだのかを、詳しく書くべき。
- ・物事の良い面と悪い面の双方が見えないと、中身が見えず正しい評価ができない。このバランスをとることが客観性ある評価につながる。

○以上の議論を踏まえ、検討会からは「アクションプランがおおむね順調に進捗し、訓練についても着実に進められており、10月からの運航再開の見通しが立ったものとする」との意見をいただいた。なお、最終的な運航再開の判断は、9月25日にアクションプラン及び訓練の進捗について検討会の委員に報告し、その意見を聞いた上で行うということなので、委員の皆様には専門的な見地から最後のご検討をお願いしたい。

別紙 岐阜県防災ヘリ運航管理のあり方検討会（第5回）出席者

○委員

小林 恭一	東京理科大学総合研究院教授
塚原 利夫	日本ヒューマンファクター研究所副所長
竹内 治彦	岐阜協立大学学長
是枝 晶之	朝日航洋株式会社エグゼクティブアドバイザー

○オブザーバー

名古屋市消防局  
セントラルヘリコプターサービス株式会社

○岐阜県

平木 省	岐阜県副知事
渡辺 正信	危機管理部長
立石 薫	危機管理部次長
西 哲也	危機管理部次長
宮前 良一	危機管理部防災課長
葛西 孝啓	危機管理部防災課防災航空センター長
棚瀬 正樹	危機管理部防災課防災航空センター管理監
田中 直人	危機管理部防災課航空安全管理監
谷藤 昌浩	危機管理部防災課消防航空隊長